

I 実践

1 研究主題

思いやりの心をもって、好ましい人間関係を築くことができる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は複式学級のある小規模校であり、全校児童は25名である。小規模特認校制度により、多くの児童が市内全域から転入し、バス通学をしている。また、小中一貫教育も行われており、コミュニケーション科（英語・ことば）など様々な表現活動の場を設定して取り組んでいる。声に出して発表することが苦手な転入生もいたが、自分の考えを相手に伝えようと意識し取り組み、すこしずつ表現できるようになってきている。しかし、在校生も多くの転入児との出会いから新たな人間関係づくりが求められるようになり、課題の1つとなっている。そこで、異学年交流などの様々な体験活動を取り入れることで、お互いを知り、相手を思いやる心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 日立特別支援学校との交流学习（1・2年生）
- イ なかよしフォーラムの実施（人権集会）
- ウ 豊かな体験活動の展開（縦割り班活動など）
- エ 人権擁護委員によるいじめについての講話（人権教室）

2 実践内容

(1) 日立特別支援学校との交流学习

今年度も11月に実施した。2年生は1年生の時にも交流をしていたので、とても楽しみにしていた。名刺交換や玩具による自由遊びなどを行った。11月の交流に向けて、昨年度よりも仲良く活動したいと感じていたため、上手くできなかったことを学級活動で話し合った。楽しく過ごすために、積極的に声をかけることや、優しい気持ちで接することを目標とした。相手意識をもって集会の準備が行えた。1年生は初めて参加するので、2年生が話し合った内容をもとに、「大きな声で優しく伝えよう」「笑顔を忘れない」など、具体的にできることを教えていた。

中里交流センターでは、音楽に合わせて国体ダンスや玩具による自由遊びを楽しんだ。本校児童が進んで声をかけて遊びに誘ったりして、自然に仲良く交流することができた。始めは緊張をしていた1年生も、2年生の様子を見ながら、名刺交換で声をかけていた。2年生は昨年度よりも友達の顔や反応を見ながら、思いやりの心を持って接することができた。前回よりも深い心の交流ができたと感じた。最後の写真撮影では、2年生は今回で交流が終わってしまうので、みんな名残惜しそうにいつまでも「ありがとう」と声をかけていた。1・2年生で交流を行うので、3年生になると交流が途切れてしまう。3年生以降も児童間のつながりを深めるために、今後も継続して手紙などの交流を続けていきたい。



(2) なかよしフォーラム（人権集会）の実施

みんなで仲良く生活ができるように、「今できること」について、学級毎に話し合いを行った。その話し合いをもとに、「なかよしフォーラム」を行い、学級で話しあった「今できること」の学級の目標や自分の目標を児童全員が発表した。学級や休み時間での他学年とのトラブルや些細な行き違いについて、自分たちで考えた劇等を通して、いじめについて考えることができた。発表を聞き、今後学級や他の学年の友達と仲良くするためにはどうしたらいいか、考えるよい機会となった。「気持ちは仲良くしたいと思っているが、強い言葉が出てしまう」との意見もあった。高学年では「もっと優しい言葉で伝えたい」など、自分の言動を振り返る内容であった。その後、休み時間には言葉に気をつけて、お互いが仲良くしようとする姿が見られた。



(3) 豊かな体験活動の展開

ア 異学年との交流（縦割り班活動）

本校は、縦割り班による清掃活動や田植えや稲刈り等を行っている。清掃では、場所をローテーションしながら取り組み、昼休みが終わると、高学年の児童は低学年の児童を教室に迎えに行ったり、終わった後は一緒に戻っていったりする姿もよく見かける。また、上級生が優しく声をかけながら、やり方を教えて清掃に取り組んでいる様子がとてもほほえましい。

イ みんなでランチ（年間3回実施）

健康委員会が中心になって進行をしている。全校児童と教師全員が縦割り班のグループで、一緒に仲良く話をしながら給食を食べている。また、班ごとに食育クイズを行うことで連帯感が生まれ、たいへん盛り上がった。小規模特認校制度による転入児は、このような場で他の児童に質問をしたり話を聞いたりすることで友達になれるきっかけとなる。また、普段なかなか話せない先生等との食事も、児童はとても楽しみにしている。事後は、カードに感想を書き、写真と共に掲示板に掲示し、楽しい雰囲気作りをしている。

ウ あいさつ運動や奉仕活動・感謝の手紙の作成

通学班でのあいさつ運動や落ち葉拾い・学年花壇の整備を全校で取り組むことができた。バス通学児はあいさつ運動に参加できないので、バスの運転手さんや添乗員さんへ感謝の手紙を作成し、お世話になっている方々に、感謝の気持ちを行動で表わすことができた。

エ 人権擁護委員によるいじめについての講話（人権教室）

低・高学年に分かれ、人権擁護委員を招いての人権教室を実施した。自分にも起こり得る日常での些細な行き違いによる悪口や集団での無視やいじめについてのDVDを視聴した。そして「いじめはどんなことがあっても絶対にしない」ことを確認し、いじめについて考えたことや感じたことを全員でワークシートに記入し、思いを発表することができた。

3 成果

- ・人権集会・人権教室や人権コーナーの活用により、友達のよいところや考えなどへの理解が深まり、他尊意識を育てたり、将来の夢や頑張った自分へのメッセージを書くことで自尊感情をも高めたりすることができた。今後もこうした取り組みをさらに充実させていきたい。
- ・小規模特認校制度による転入児が、早く本校に慣れて友達と仲良く生活できるようにするためにも、縦割り班活動や全校での活動は大変効果的であった。

II 今後の課題

人間関係づくりが苦手な児童も多く、行事等楽しい場面があると自分中心の考え方や行動をしてしまう児童も見られる。各教科や道徳の時間など学校教育全体を通して、人権に関する学習をより充実させ、児童一人一人の人権意識を高めるための取り組みを、計画的継続的に実践していきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

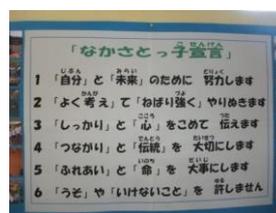
児童同士の「ありがとうメッセージ」を顔写真と共に掲示した。全校児童の「人権メッセージ」も掲示した。特別支援学校との交流会や隔年毎に取り組んでいる高齢者福祉施設での交流の写真などを掲示したりして、児童に啓発を図っている。各教室にも人権コーナーを設置して、自尊感情や他尊意識を高めていけるように努めている。



人権メッセージ



ありがとうのきもちをつたえよう



なかさとつ子宣言



なかよしフォーラム